

コミュニティ・スクールだより

令和7年3月発行

令和6年度第3回学校運営協議会を開催しました

2月10日（月）、令和6年度第3回学校運営協議会を開催しました。今年度のテーマ「交流」の取り組みについて、学校からの詳しい報告と協議委員の意見から来年度の方向を検討しました。

今年度のまとめ（成果など）

- 両校の教員がお互いの教育現場を参観して、どのような教育活動を行って子供達の支援をしているのか理解を深めることができた。
- 夏季休業中の研修で、2校の職員が一緒に就労先の事業者からの卒業後の詳しい話を聞くことができて、卒業後を意識したつながりのある教育の重要性を認識することができた。
- 公民館を会場として医ケア研修を行うことができた。館高特主催で、館特職員も参加した。
- 2校の合同避難訓練は「実際に防災扉が閉まってしまったらどうするか」という訓練を行い、今後の更なる課題を検討している。
- 館林高等特別支援学校においては、外部（館林特別支援学校、公民館、JA邑楽館林、大泉高校、ジョイフル本田）と協力を仰ぎ交流活動を進めることができた。
- 広報活動の強化を考えているが、インスタグラムの活用に不安という意見がある。子供の写真は載せず学校宣伝から徐々に始めて行くことを検討している。
- 七小は特別支援学校との交流活動に参加でき、様々な子供達とふれあうことで自分たちの勉強になり良かった。

来年度に向けて話題になったこと

①近在の就労事業所や福祉サービス事業所（パンフレットの活用など）

保護者は福祉サービスのパンフレットからどんな事業所があるか知ることができるが、書面だけでは実際にどんな事業所か分からないので、今後の保護者へのフォローが必要。事業者が学校に来て話しをする機会を増やしたり公共施設（公民館や、事業所での説明会など）を利用したりするのも良いのではないかな。

②交流の幅を広げる効果（障がい者理解を深めるための地域や学校、行政の関わり）

職場体験や大泉高校との交流から、体験を通して障がい者の理解が深まり、同じ職場体験を希望したり、事業所のアルバイトに來たりする高校生や卒業生が出てきた。

③広報活動の重要性（学校からの発信ツール）

インスタグラムを活用する取り組みは、子供を危険にさらすようで不安になる保護者の意見があるが、障がい者の理解を深めたり保護者同士のコミュニケーションの輪が広がったりできるツールになると思う。今後、コメント欄をオフにするなど利用の仕方を丁寧に始めて行く。

④卒業後の余暇活動や趣味などの教育支援

館特ではこぶし学級という卒後に年代を超えて集まる居場所がなくなっている現状。職員の働き方改革で、長期休業を使った交流（ボッチャなど）を行ったが、平日なので参加することが難しい現実がある。土日でないとは参加できない卒業生が多いため、回数を確保することは難しい。館高特では文化祭や同窓会、成人を祝う会などを行っている。

来年度へ向けて

学校として保護者へのフォローを大切にして交流の場を増やしていく。そのため公民館の利用（地域の事業所との話し合いや研修での場）や広報活動も検討していく。